

白馬よ 来年も

「山登り」らしきものを始めて4年め。今回の白馬岳山行は、私が初めて挑む山らしい山であった。

「山頂からの眺めは最高だよ。山に登ったなって感じがするし、今までに登った山が小さく見えるよ」今回のリーダーの言葉に、私はその気になっていた。

水戸、20時発の列車に乗って白馬駅なるものに着いたのが朝の6時10分。ここでチト考えて登り口の猿倉まではタクシーで行くことにする。30分ぐらい順番を待っていざ乗車という時にハプニング。メンバーの1人がいないではないか。「あいつ恐れをなして逃げたかな」と思いきや荷物だけはその場にあった。仕方がないので権利をあのパーティーにゆずることにする。トランプでいうなら1回パスというところだろうか。ふてくされているところへやっと戻ってきたメンバーの1人は、さっぱりとした顔をしていた。「なによ、心配させておいて……………」

猿倉山荘でコーヒーをわかして飲み、目のさめたところで登り始めたのが8時。第1日目のハイライトである大雪渓を登る。前日は雨が降ったという事でアイスパーンの上をアイゼンをつけて登ること約2時間。登り切った所で昼食。コッヘルを持ち出して作った食事のおいしかったこと。引きずりこまれそうな大きなクレーパスを目の前にして食べたラーメンの味は最高だった。

強く降り出した雨に傘を差しながら今夜の宿泊所である村営の山荘に着いたのは夕方5時すぎ。台風が来ていることも忘れて明日は晴れると信じて床に着いた。

第2日目。雨と風の音に目を覚ます。なんと台風直撃。最低最悪の状態なのだ。予定では山頂からゆっくり稜線を歩き、日本で2番目に高い所にある蓮華温泉へ向うはずだった。風速15mから20mで、このコースへ向ったパーティーはいないとのこと。それでも私たちは、午前中いっぱい考えて、とにかく雨具を買い込み雨と風の中を温泉手前の大池山荘へと向った。

何回か山へ登ったけれどこんな雨と風の中を歩くのは初めてだった。こんな状態だから山の景色なんてものはぜん

ぜん見えないし、耳にするものは雨と風のぶつかってくる音だけ。話も出来ず、前を歩く人の足もとを見ながら3時間。道に迷ったのではないかと不安になりながら濃霧の中に大池山荘を見つけた時のうれしさはなんとも言えなかった。転がり込むようにして「今晚お願いします」でも返ってきた言葉は「受付はとなりですよ」なんちゃってガックリ。でも無事こられてよかった。温泉に入れないのは残念だけど何事もなかったのだから今日はこれで良いことにする。それにしても、あした最後の1日ぐらいは太陽をおがみたい。

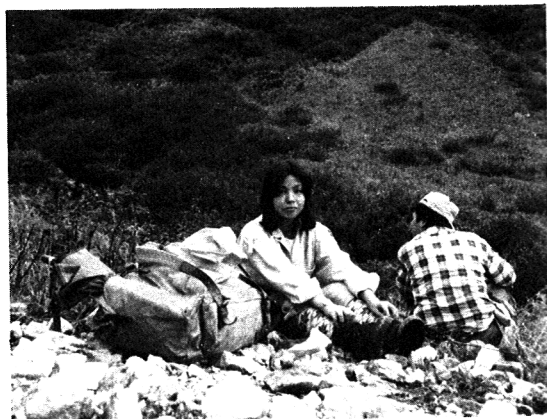
第3日目。昨日の雨はなんとか止んだけど、空を飛べそうになるくらいの風が吹いていた。それでも昨日の雨風に比べたらずっと楽勝。7時10分前大池山荘を後にして最後の下りに入った。7時頃やっと太陽を見た。3日目にしてやっと見られた太陽だ。おまけに虹まで出ているではないか。前日までの悪天候が悔まれる。

でもいいワ。一応予定のコースは歩けたんだから。

また登ってみたい。今度は天気の良い日に北アルプスの山並みをこの手でつかめるくらいの実感を味わいたいと思うのだ。

絶対登ってみせるんだから、今度こそ……。

(谷口)



白馬山頂下で もうひと息だ

草野球必勝法……………その1

— 審判の弱点を突け —

とにかく野球が盛んである。大人も子供も自らプレーヤーとして、また観戦者として野球に憑かれたように夢中になっている。

テレビでは少年野球から高校野球、大学野球、そしてプロ野球と、野球に明けて野球に暮れている感さえある。そのせいか、底辺を支える草野球熱も昇りつぱなしだ。

話は他でもない。野球ルールの難しさ（審判の難しさ）である。テレビの野球中継のせいで草野球のレベルが向上したせいかどうかは余りハッキリしないが、審判がやりずらくなったとこぼしている先輩もいる。どうやらその理由は、野球に対して目が肥えてきたということらしい。しかし、そういう反面、抗議の内容はキチンとルールを理解した上とは思えないものが多いようだ。だからこそ特に審判は大事であり難しさもあろうというものだ。

小生も県庁の野球部に籍を置いたというだけで、方々の草野球の審判を頼まれる。頼まれるのはいいが、ルールに精通していると勝手に早合点されては困る。時にはアウトかセーフか、ボールかストライクかでさえとっさの判断は間違いがあるものだ。そんな訳で、口にこそ出さないないが良心が痛むことだってしばしばある。

さて本題だが、ルールの複雑さと適用の困難さを克服するため、小生が見聞した珍プレーや例題を考えながら勉強することにしよう。

「振り逃げ」考

これは、今年の県税事務所対抗に起ったケースでの、主審（小生）の悲しくも恥しいミスジャッジの1例である。

【事例】 A県税事務所対T県税事務所 3回表T県税事務所の攻撃。一死走者なし。打者は2ストライク1ボールから三振。ところが左腕投手の大きく落ちるカーブでボールは右打者の右足にバウンドして当たり大きくそれて捕手後逸。(主審からは打者に触れたかどうかは見えず)打者は一目散に一塁へセーフ。A県税事務所から投球に触れた旨のアピール。

あなたが主審だったらどうするかな。

答 2ストライク後、打者が打ったが（バントの場合

も含む）、投球がバットに触れないで打者の身体に触れた場合、打者はアウトとなる。

「振り逃げ」と言えば、私がまだ若く草野球の速球投手？をしていた頃、このルールを充分理解していなかったために損をした苦い経験がある。というのは、一死走者一塁で次の打者を三振に仕留めたのですが、捕手が後逸、振り逃げされました。つまり、アウトの走者まで生きてしまったのです。草野球ですから、もちろん主審もそんなことはおかまちなしです。

打者が自動的にアウトになる場合の中に、『無死または一死で一塁に走者がいるとき第三ストライクが宣告された場合』と明記されているのです。つまり、アウトが0か1で走者が一塁にいるケース（一塁。一・二塁。一・三塁。一・二・三塁）では、ワイルド・ピッチやパス・ボールがあっても打者は第三ストライクが宣告されればアウト、振り逃げができないのです。グヤジー。

グラブや帽子をボールに投げ当てたとき

野手がグラブとか帽子などを、フェア・ボールに故意に当てたときは三個の塁が与えられる。送球に故意に当てたときには二個の塁が与えられる。

問 一死走者一・三塁。打者はスクイズをした。バントの打球は三塁のファウル・ラインの外側をラインにそってころがった。あわやフェア地域に入ろうとしたとき、守備側の投手がグラブを投げつけて当てた。打球はそのままファウル・ラインの外側に止まってしまった。

この間に三塁走者はホームイン。一塁走者も二塁へ、打者は一塁へ進んだ。守備側はファウルになったのだから試合停止球であると抗議し、攻撃側はインターフェアランスで打者走者は三塁へ進めると主張。

答 “ファウル”と判定し、走者をもどして再開

なぜなら“フェア・ボール”に対してはペナルティを課すがファウル・ボールはルールの中に含まれていない。

このルールを知っていると、思わぬいいことがあるかも知れない。しかし、主審がルールを知らない場合は保証しかねる。では今回はここまで。 (高野)